来賓挨拶

赤羽一嘉　国土交通大臣

私は9月11日の大臣就任以来、このひと月半の間に、発生しました台風災害や激甚災害の被災地、延べ17の道府県の現地を視察させていただきましたが、いずれの被災地におきましても、近年の気候変動による災害の激甚化と頻発化、そして深刻な被害を目の当たりにしました。被災地の首長の皆様からは切実なご要望をいただき、国土交通省として被災地の声に応えられるよう、現場力を最大限に発揮し、災害対応に全力を尽くしているところではございますが、同時にまた抜本的な防災・減災、国土強靭化対策の必要性をも痛感しているところでございます。

全国の首長の皆様方からは「防災・減災、国土強靭化のための3か年緊急対策は実にありがたいが、3年で終わらせないでほしい」という多くの声をいただいているところでございます。100年に1度の大規模な自然災害がいつどこで発生しても不思議でなくなった我が国で、国民の皆様の命を守るという崇高な使命を果たすためには、計画的なインフラの老朽化対策をはじめ、中長期的に国土強靭化事業を着実に進めることが重要でありますことは、改めて申し上げるまでもないことであります。私どもは、そのための予算の確保を目指し、しっかり対応してまいりたいと考えておりますので、どうか全国の皆様の絶大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、道路の老朽化対策につきましては、本年3月、一巡目の点検が終了しましたが、この点検の結果、地方公共団体が管理する修繕が必要な橋梁の修繕率は未だに2割であるとの課題も明らかになりました。今後、これらの箇所について、具体的な修繕を行うことが必要であり、そのためには予算編成過程においてしっかりと必要な予算確保に努め、財政面や技術面を支援してまいりますので、それぞれの地域で着実な取り組みをどうかよろしくお願い申し上げます。

また先月の台風では、多くの地域で倒木が電線を支障し、電柱が倒壊してしまった結果、大規模な、また長期間の停電が発生し、復旧・復興が困難な状況が続き、改めて地震や台風等の被害が受けにくい無電柱化の必要性が認識されたところです。国土交通省では従来からの計画に加え、令和2年度までに防災・減災、国土強靭化のための3か年緊急対策において、強風による電柱倒壊を防ぐ観点から、追加実施を盛り込み、約2400キロの無電柱化に着手することにしており、関係諸機関との連携を密にして、無電柱化をスピードアップしてまいります。

さらに国土強靭化とともに、地域の生産性向上を図るため、高規格幹線道路等の未整備区間の解消に加え、4車線化、6車線化の道路ネットワークの強化も着実に実施してまいります。

このように道路整備に関する課題は山積しており、解決に向け、これまで以上に必要な予算を確保しなければなりません。国土交通省といたしましては、本日ここにお集まりの皆さんの幅広いご意見、ご支援を賜りながら、必要な道路整備を着実に推進し、安全・安心な社会づくりに全力を傾けてまいります。

来賓挨拶

土井　亨　衆議院国土交通委員長

本日ここに、「安全・安心の道づくりを求める全国大会」が開催されるにあたり、一言ご挨拶させていただきます。

さて皆様におかれましては、自然災害からの復旧・復興や安全・安心の道づくりを実現するために、日頃から格別のご尽力とご努力を続けられておられますことに深く敬意を表する次第であります。

申し上げるまでもなく、道路は国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない、最も基礎的で身近な社会資本であるとともに、災害時には避難路や緊急輸送路として重要な役割を果たしております。しかしながら、全国にはまだ多くのミッシングリンクが残されており、防災・減災とともに、地域の雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上などの観点からも道路ネットワークの整備促進は喫緊の課題であることは承知いたしております。

このほか、通学路等の生活道路における安全対策をはじめ、暫定2車線区間の4車線化、無電柱化の推進など、安全で快適な通行空間の確保に向けて早急に取り組むべき課題が山積しております。

衆議院国土交通委員会としましても、皆様のご意見や採択される決議をしっかり受け止め、今後もご期待に添えられるよう、最大限の努力を傾注してまいる所存でございます。

来賓挨拶

田名部匡代　参議院国土交通委員長

本日「安全・安心の道づくりを求める全国大会」がこうしたくさんの皆様がご参集の下、盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げたいと思います。

我が国は申し上げるまでのなく、地震の震源、火山が世界規模で集中しており、気象災害を毎年のように受ける、正に災害大国であります。災害時に道路が避難や緊急物資の輸送路として、しっかりと機能を発揮し、住民の命を守り、素早い復旧や復興を可能とするためにも、ダブルネットワークの構築、老朽化の対策など、全国的な道路の防災対策を推進することは喫緊の課題であります。

また、通学路においても、子供が犠牲となるような痛ましい事故が多発しております。道路における交通の安全も早急に解決しなければなりませんし、安全の確保をしていかなければなりません。加えて、高齢者や障碍者などが安全で通行できる、そうした配慮も必要であります。道路のバリアフリー化の推進、狭い道路の拡幅や無電柱化の推進による歩行空間の確保なども求められているところであります。

参議院国土交通委員長の職にある私としましても、先ほど古賀会長が仰っておりました、やるべきこともやらねばならぬことも、しっかりと皆様のご要望も踏まえ、全力を傾けてまいる所存でございます。

意見発表

尾﨑正直　全国高速道路建設協議会会長

今日、「安全・安心の道づくりを求める全国大会」において、私からは全国高速道路建設協議会の立場から3点、高速道路の建設推進に係る意見を発表させていただきたいと思います。

第1点目がミッシングリンクの解消であります。高速道路の整備は着実に前進して、整備率は現在85%と随分進んできたと思います。しかし、まだ15%相当のミッシングリンクが残っています。そして、ミッシングリンクのある地域には津波の襲来が想定されているなど、非常時や災害時に脆弱な地域が多いということも事実であります。早期に解消について、今後も力を入れていかなければならないと思っております。

そして3点目は、維持修繕の必要性ということであります。国土交通省において先に推計が発表されました。もし予防保全でなく、事後保全を中心に取り組みを進めてしまうと、現在の維持管理費の2・4倍の予算が必要となる時代がやってきてしまう。ですから、事後保全でなく、予防保全を徹底することが極めて大事だと思っております。それによって、現在の1・5倍くらいの維持費・修繕費の増加で何とか収まることができるという推計がされました。安全・安心の確保のためにも、そして将来的な財政負担の軽減の観点からも予防保全を徹底する取り組みが必要だと考えております。

ミッシングリンクの解消、そして暫定2車線区間の解消、維持管理の促進、いずれに共通して言えることは、予算が必要であるということです。令和2年度においても予算をしっかり獲得していくことが大事であり、緊急3か年では済まない、もっと長期な視野を持って対応していただく必要があります。さらに言えば、新たな財源確保ということも視野に入れて議論していかなければならないのではないかと思っております。

本日、ご参会の皆様とともに、今後の道路整備の促進について力を入れて取り組ませていただければと願っております。一致団結して取り組みましょう。

決議

地方創生及び国土強靭化を推進し、ストック効果を早期に発揮させるため、次に掲げる項目を計画的かつ着実に実現すること。

一、東日本大震災や熊本地震等による被災地の速やかな復旧・復興
一、防災・減災、国土強靭化のための令和３年度からの緊急対策の拡充・継続
一、ダブルネットワークの構築など国土強靭化に資する社会資本整備予算の確保
一、高規格幹線道路等の未整備区間の解消及び四車線化・六車線化の早期実現
一、高速道路料金の事業者向け割引の継続
一、新たな広域道路交通計画の早期策定及び重要物流道路の更なる指定など
　ネットワークの強化並びに特車通行許可の迅速化に向けた制度見直し
一、予防保全への転換に向けた老朽化対策に必要な予算の別枠確保及び補助化による重点整備
一、緊急安全点検結果を踏まえた交通安全対策、幹線道路の渋滞対策、無電柱化の推進及び自転車利用環境の創出
一、スマートＩＣ整備やＳＡ・ＰＡ、道の駅の機能強化及び交通ターミナルの官民連携での全国展開
一、災害などに対応する地方整備局等の体制の充実・強化

長期安定的に道路整備・管理が進められるよう、新たな財源を創設するとともに、令和二年度道路関係予算は、要求額を満額確保すること。
また、令和元年度補正予算を早期に編成すること。

令和元年十月二十九日

安全・安心の道づくりを求める全国大会

司会

立谷秀清　福島県相馬市長

道路整備促進期成同盟会全国協議会副会長

決議文朗読

賴重秀一　静岡県沼津市長

全国街路事業促進協議会代表

閉会の辞

大久保太一　茨城県常陸太田市長

道路整備促進期成同盟会全国協議会会長